

VI 施設・設備等

【大学・学部における施設・設備等】

1 施設・設備等の整備

(1) 大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

現状の説明

本学における施設・設備等については、大学基礎データ「VI 施設・設備等」の各表のとおりである。

点検・評価 長所と問題点

学生のアンケート調査の結果によれば、設備についての全体的な満足度は低いことも明らかになった。すなわち、設備に満足している割合は約30%、不満に感じている割合は約40%となっている。

また、学部学生が卒業論文作成のために教員と密接な連携をとりながら研究を進めていく場（環境）が限られており、早急な改善が望まれる。

将来の改善・改革に向けた方策

上述の問題点等を考慮し、平成16年度に学生研究棟（仮称）の建設を予定しており、教員研究室と学生研究室の効果的な融合が図ることのできる施設とする予定である。

(2) 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

現状の説明

情報処理機器の配備状況は、以下のとおりである。

コンピュータ実習室の機材

実習室(室番号)	PC仕様	PC台数
102-1 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	85 台
102-2 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	57 台
202 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	31 台
203 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	71 台
204 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	71 台
221 コンピュータ実習室	WINDOWS2000/LINUX	61 台
322 コンピュータ実習室	LINUX	71 台
323 コンピュータ実習室	LINUX/WINDOWS2000	71 台

点検・評価 長所と問題点

演習室におけるPC機器は、原則3年ごとに更新されており、これによって急速な技術進歩への対応を可能としていることは高く評価できる。しかし、3年ごとの

更新のための労力は多大であり、担当者の教育研究面でのその他の仕事を大きく制約していることも事実である。また、カリキュラム改正との同期化に関しても若干の問題が生じている。

将来の改善・改革に向けた方策

学内LANの整備については、新入生のノートPC必携化との関係で新たな対応が求められているが、平成17年度のカリキュラム改定に合わせて整備を図る予定である。

(3) 社会へ開放される施設・設備の整備状況

現状の説明

現時点では社会へ開放されている施設・設備はない。

点検・評価 長所と問題点

学内における教育・研究に支障が生じない範囲で、開放に向けた対応を検討中である。

2 キャンパス・アメニティ等

(1) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

現状の説明

本学には、現在までのところ、キャンパス・アメニティ形成・支援のための全学横断的な組織は存在していない。学生実態調査や各種学生アンケートで出された学生の要望に対して、各種委員会や事務局と連携をはかりながら、学生部、学生課が個々に対応しているのが現状である。その具体的な成果としては、学生の活動拠点としての学生会館の建設、学内LAN敷設の拡充、障害のある学生用設備の改善、学生用駐車場の拡充、禁煙エリアの大幅拡大、喫煙マナーの向上キャンペーン、硬式野球部のグラウンド整備などをあげることができる。

点検・評価 長所と問題点

学生の要望に対しては可能な範囲で対応し、一定の成果をあげることができた。しかし、さらに快適な学内アメニティを構築するためには、学生の要望を速やかに実現できる全学的な組織づくりが必要となってきた。また、大きな課題も残されており、例えば、学内緑化をどうするかという問題等である。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は、学内に設置されている「将来構想検討委員会」と連携をはかりながら、全学横断的な委員会ないしは組織を構築して、巨視的な視野からバランスのとれた、学内アメニティの形成と支援が求められている。